

都市再生整備計画

みくり やしゅうへん ちく
御来屋周辺地区

鳥取県 さいはく 西伯郡 だいせんちょう 大山町

平成20年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	鳥取県	市町村名	大山町	地区名	御来屋周辺地区	面積	250 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標: 町の魅力発信と観光交流の拡大・充実により、地域の活性化を目指す。
 目標1: 大山町の玄関口の一つとして観光交流拠点を整備し、地域資源の魅力を発信することにより、地域の活性化と交流人口の拡大を図る。
 目標2: 御来屋地区、名和IC周辺等の周遊観光ルートを構築及び情報発信し、町内各所でのにぎわいを創出する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・本町は自然環境や景観、農畜産物、水産物など様々な地域資源を有しており、これは近隣市町村と比較してもその多様性や産出量において優位性を備えている。具体的な資源として、大山隠岐国立公園に位置する大山周辺の雄大な景観や動植物などの自然資源、大山寺坊跡や太平記にまつわる史跡などの歴史資源がある。農業では、稲作・畑作・畜産がバランスよく生産され、特産品としてはブロッコリー、白ネギ、梨、リンゴ、和牛などが県内の主要生産地になっている。漁業は、当地区内にある御来屋漁港が沿岸漁業の基地で県内2位の漁獲量を有しており、ハマチ、サワラ、サザエ、ワカメは県内シェア1位となっている。また、これらの特産品は加工グループにより多様な加工品が開発され販売されている。
 ・近年の大山町を取り巻く環境としては、平成20年3月に山陰道・大山～名和間が開通予定で、その後も平成20年代始めに山陰道中山～東伯間が、平成21年度には姫路鳥取線が供用開始の予定である。広域の自動車交通網は、これまでの岡山・米子自動車道からのルートに加え、町東部(鳥取市側)からの交通網も整備が進みつつある。
 ・大山町は町活性化に向けて、町内各種団体によるプロジェクトチームを結成し議論を重ねた結果、平成18年度に「大山恵みの里づくり計画」を策定した。計画は本町の様々な観光・地域資源の要素を融合させることにより「観光・交流・集客」と「農林水産業・特産品・食」を両輪のごとく駆動させ、また本町の魅力の向上・発信により観光交流人口の増加を図っていくことを目的としている。この中で名和IC周辺は、情報発信拠点としての役割を担うことが求められている。

課題

・近年、大山周辺の観光入込客数は減少傾向であったが、平成17年にはわずかながらも134万人と上向きに転じた。今後は山陰地方・中海圏域広域エリアの1拠点として、他地域とも連携しながら大山町の観光交流産業を活用・発展させてゆく必要がある。
 ・大山町は農水産品、自然資源などにおいて多様な資源を有しているが、知名度や販売力、集客力が弱いためにその魅力を活かしきれていないのが現状である。大山を中心とした自然資源や歴史資源を大切に守り、その価値を高めながら町内外へ伝える取り組みや、農産品、水産物など地元産品を、近年の多様な流通システムを活用しながら大山町ブランドとして発信し、知名度を高めてゆくことが課題である。
 ・近年の多様化する観光交流ニーズに対応するには、ツーリズム情報やイベント情報など、観光客の個別のニーズに合わせた情報発信の仕組みが必要である。このためには情報発信拠点の整備、ツーリズムのシステム構築などが必要であり、同時にこれらの運営のため、住民活動組織や企業など、行政以外の様々な主体と行政との協働が重要な課題である。

将来ビジョン(中長期)

平成18年6月、大山町総合計画において、本町の地域資源を継承し活用・融合させて新たな価値の創造を目指す「大山恵みの里構想」をシンボル施策として策定した。構想では、本町の基幹産業である農業・漁業の新たな展開方針として大山のブランドを活かした特産品や食(料理)の開発、地産地消を図るための流通・販売経路の開拓、そのための拠点づくりに取り組むこととしている。
 平成18年10月、「大山恵みの里構想」の実現に向け、行動計画として策定した「大山恵みの里づくり計画」では、改めて、観光・物産等の拠点づくり、特産品開発研究会の設立、ICTを活用した通信販売や体験観光商品の開発などを計画している。現在、これらの運営組織として公社の設立及び観光協会の組織強化を行ったところであり、また、大山町ブランド協議会を立ち上げ検討を進めている。
 平成19年3月、大山中海エコツーリズムサミットが開催され、「大山中海エコツーリズム宣言」がなされた。これにより、町域を超えた大山中海周辺の広域エコツーリズムが推進されることになり、大山隠岐国立公園や海岸線を有する本町はこの中でも重要な役割を担うものと想定される。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
地区内の居住人口	人	地区内に居住する人口	地区内の農業・漁業や観光資源などの地域資源を情報発信し、関連事業など地場産業の活性化を図る。これにより、毎年対前年比99%で減少を続けている地区内居住人口の流出を防ぎ、人口を定着させる。	2,609	H19	2,600	H22
主要施設入込み観光客数	人/年	名和神社の入込み観光客(参拝者)数	周遊観光ルートの構築及びこれの情報発信により観光交流人口の増加を図る。これの象徴として「太平記」の舞台・潮風のみちコースの中で主要な名所である名和神社の入込み観光客数が5%増加することを目標とする。	23,000	H19	24,150	H22
御来屋賑港株式会社への来訪客数	人/年	地区内における御来屋賑港株式会社※への来訪客数 ※「整備方針」の「その他」に説明記載	食・物産や名所旧跡などの情報発信により地区内への誘客を図り、併せて水産基地である御来屋漁港に隣接する観光ポイント御来屋賑港へへの来訪客数が5%増加することを目標とする。	1,619	H19	1,700	H22
地区交流参加者数	人/年	地区内でガイドボランティアや地域住民と交流する観光者の参加数	地区内の歴史・史跡空間等の地域資源の再生に加え、観光交流拠点を新たに整備することにより、ガイドボランティア、地域住民と観光者の交流を図り、交流参加者数を概ね100%増加することを目標にして賑わいを創出する。	102	H19	200	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>目標1: 大山町の玄関口の一つとして観光交流拠点を整備し、地域資源の魅力を発信することにより、地域の活性化と交流人口の拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の中心に位置する山陰道名和ICを大山町の玄関口と位置づけ、町内観光の足がかりとなる観光交流・情報発信の拠点として観光交流センターを整備する。 ・観光交流センターにおいて、イベント情報、ツーリズム情報など、観光客のニーズにあったタイムリーな情報を提供する。 ・観光交流センター内に休憩所、物産即売、喫茶コーナーを設けることにより、観光客と地元住民がゆったりとくつろぎながら交流できる場を創出する。 	<p>高次都市施設(基幹事業/観光交流センター)</p> <p>地域創造支援事業(提案事業/観光交流センター内物産即売・喫茶コーナー)</p> <p>関連事業(御来屋漁港整備事業/大山町)</p>
<p>目標2: 御来屋地区、名和IC周辺等の周遊観光ルートを構築、情報発信し、御来屋周辺地区をはじめ町内各所でのにぎわいを創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『「太平記」の舞台・潮風のみち』(歴史散策コース)上の主要な立ち寄りスポットに「潮風のみち情報板」(観光ルート、観光スポット、旅程)を設置し、ルートの紹介やその他関連事業などと連携した観光情報を発信する。情報板にはベンチを併設し、利用客の休憩の場を確保する。また、ルート上の交差点などに道標を設置する。 ・観光交流センター内に休憩所、物産即売、喫茶コーナーを設けることにより、『「太平記」の舞台・潮風のみち』利用者の休憩の場を提供する。 ・潮風のみち利用者のための駐車場を設け、車でアクセスする利用客のスタート地点として位置づける。一方、公共交通機関利用者はJR御来屋駅がスタート地点となる。 ・名和公園は老朽化が進んでいるが、潮風のみちの1スポットであり、JR御来屋駅と、観光交流センターの中間のエリアにあるため、散策途中の休憩に適している。公園敷地のうち、散策客が立ち寄りやすい箇所に休憩施設を整備(改修)する。また、名板や案内板のない史跡等があるため、名板を設置する。 ・潮風のみちや御来屋周辺地区の魅力アップを目指し、ワークショップ、歴史ガイドとの散策やフィットネスウォーキングなどのイベントやパンフレット作成などによる活用方を検討する。 ・関連事業の水産物直販施設、みくりや市との連携・分担により、町内各所でのにぎわいを創出する。 	<p>高次都市施設(基幹事業/観光交流センター)</p> <p>地域生活基盤施設(基幹事業/潮風のみち情報板・道標補充)</p> <p>地域生活基盤施設(基幹事業/潮風のみち駐車場)</p> <p>地域創造支援事業(提案事業/観光交流センター内物産即売・喫茶コーナー)</p> <p>地域創造支援事業(提案事業/名和公園名板ほか一部改修、史跡名板補充)</p> <p>事業活用調査(提案事業/潮風のみち利用促進検討)</p> <p>関連事業(御来屋漁港整備事業/大山町)</p> <p>関連事業(みくりや市/みくりや市運営協議会)</p> <p>関連事業(ボランティアガイド/大山町ガイドボランティアの会)</p> <p>関連事業(漁師料理提供/御来屋販港株式会社)</p>
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○町内水産物を水産加工処理施設(関連事業)に流通させ加工品を製造し観光交流センターで情報発信及び即売を行う。 ○『「太平記」の舞台・潮風のみち』・・・「美しい日本の歩きたくなる道500選」のひとつ。後醍醐天皇と名和長年(町内の豪族)に関する史跡が多く点在し、「太平記」に想いをはせながら伯耆往来(殿様道)を歩き、里山から海岸が一度に楽しめるルートとなっている。全行程13.7kmのうち約6.3kmが本計画区域内にある。 ○『みくりや市』・・・JR御来屋駅の駅舎は山陰地方最古の駅舎で、この駅構内を利用して直売所「みくりや市」が開かれている。地元農家の朝採れ野菜をはじめ、生花や特産品などの様々な商品がそろそろ。地元業者や生産者などが「みくりや市運営協議会」を組織し、経営にあたっている。 ○御来屋販港株式会社・・・民官協働で観光客誘致の取組みを行った結果、民間出資で設立した会社。目的は、町内水産資源の活用・PR、地元知名度の向上、地元雇用の創出など公益的なもので、業務は観光ツアー客に地元漁師料理を提供する。 ○交付期間中の計画管理(モニタリング)・・・交付期間中における目標の達成に向けた効果的で円滑な事業進捗を図るため、地元関係団体及び町関係部局と連携をとりながら適宜、事業計画の管理を行う。また、事業の実施にあたっては説明会など周知活動を行うとともに事業の達成状況についても適宜報告する。 	

都市再生整備計画の区域

御来屋周辺地区(鳥取県西伯郡大山町)	面積 250 ha	区域 大山町御来屋、西坪及び名和の一部
--------------------	--------------	------------------------



御来屋周辺地区(鳥取県西伯郡大山町) 整備方針概要図

目標	【町の魅力発信と観光交流の拡大・充実により、地域の活性化を目指す。】 目標1: 大山町の玄関口の一つとして観光交流拠点を整備し、地域資源の魅力を発信することにより、地域の活性化と交流人口の拡大を図る。 目標2: 御来屋地区、名和IC周辺等の周遊観光ルートを構築、これを情報発信し、町内各所でにぎわいを創出する。	代表的な指標	地区内の居住人口(人)	2,609 (H19年度) → 2,600 (H22年度)
			主要施設入込み観光客数(人/年)	23,000 (H19年度) → 24,150 (H22年度)
			地区交流参加者数(人/年)	102 (H19年度) → 200 (H22年度)

- 凡例
- 基幹事業
 - 提案事業
 - 関連事業

- 関連事業
御来屋漁港整備事業
(大山町)
- 関連事業
漁師料理提供
(御来屋賑港株式会社)

- 関連事業
みくりや市
(みくりや市運営協議会)

- 基幹事業
地域生活基盤施設
(潮風のみち情報板・道標補充)
- 町内広域案内板
- 潮風のみち案内板
- ▲道標

- 提案事業
事業活用調査
(潮風のみち利用促進検討)
- 地域創造支援事業
(名和公園名板ほか一部改修、
史跡名板補充)

- 関連事業
ボランティアガイド
(大山町ガイドボランティアの会)

- 基幹事業
高次都市施設
(観光交流センター)
地域生活基盤施設
(潮風のみち駐車場)
- 提案事業
地域創造支援事業
(観光交流センター内
物産即売・喫茶コーナー)

--- 「太平記」の舞台・潮風のみち
(美しい日本の歩きたくない道500選)

